

教育福祉常任委員会 視察報告書

日時：2018年7月13日（金）午前10時00分から12時00分

場所：東京都日の出町

参加者：

二宮町 前田委員長、一石副委員長、二見議長、小笠原副議長、根岸、添田、露木、渡辺、野地、善波、二宮、柳川、桑原（以上 敬称略）、戸丸事務局長、小笠原教育総務課長（教育委員会）

日の出町 星野議長および副議長、委員会委員長および副委員長、橋本町長、町民課課長含め3名、いきいき健康課課長含め2名、議会事務局局長含め2名

報告作成担当：渡辺

目的：

- ① 日の出町は75歳以上の医療費助成制度（無料化）を実施して10年になる。その制度を導入するにあたっての経緯、財政措置、実績・効果や将来の問題などを、聴取することで、二宮町での高齢者施策を考える一助とする。
- ② 高齢者外出支援バスを町が運営しているが、その運営状況や方法を聴取することで、二宮での福祉的な交通の充実について考える一助とする。

*日の出町は、人口は16,800人、世帯数は7,404世帯であるが、一般会計予算は30年度で89億8千万円。

概要：

日の出町議会 星野議長から挨拶の後、日の出町町長より挨拶と高齢者医療費助成制度をスタートした経緯についての説明があった。二宮町議会の前田委員長から挨拶をした後、町民課といきいき健康課より説明があり、質疑を行った。最後に一石副委員長より御礼の挨拶を行い閉会とした。

内容：

1. 高齢者医療助成制度に踏み切った経緯

- 平成20年9月の敬老大会で当時の町長が「日の出町発！長寿化対策～日本一お年寄りにやさしい町づくり宣言」を突然に発表、翌年4月まで準備をして、3事業を開始した。
- 昭和60年に開始された公共下水道整備事業が整備終了という時期でもあった。平成5年には福祉村構想が出されていたこともあり、福祉施策に舵を切った。
- 先ず、平成18年度には少子化対策に着手。0～15歳の小児医療費無料化、子育て世代への月1万円のクーポン（町内のみ有効）の発行などを実施、平成17年度の

特殊出生率は0.88であったが、昨年は1.82までになった。

- 人口の減少にも一定の歯止めのめどが立ち、これまでお世話になったお年寄りを大切にすする施策に取り組むことになった。
- 少子化対策と高齢者対策を進める財源には、15haになるイオンモール、39haになる工業団地(3,000人の雇用の受け皿でもある)を合わせると8億円の税収がある。さらに、三多摩地域のゴミ焼却場があることから、地域振興費として年間10億円の歳入がある。しかし、工業団地は景気に左右されることから、持続可能な制度とすることも課題。
- いたわりあい、ささえあい、おもいやりの3つを担当者に徹底して来た。

<質疑から>

- 住宅については子育て支援住宅も整備をしている。

2. 高齢者に対する事業(①人間ドック無料化、②医療費の無料化、③健康教室やスポーツ支援)の効果

- 健康増進法に基づいて40~64歳対象の事業を実施しているが、65歳以上の方も多数参加。健康意識は高まっていると認識。
- 病気が重くなってからの受診は減った。
- 平成29年3月末で、75歳以上の対象者は2,642人(人口の15.5%)、そのうち2,244人が受給(84.9%)
- 70歳~74歳の医療費助成は対象1,347人に対して、実利用者は1,255人
- 平成27年4月からは医療費助成を1年間受けなかった70歳から74歳の方に、町内で買い物ができるポイント(2,000円相当)を贈呈。
- 平成28年3月からは「日の出町健康増進計画」を策定。
- 毎年人間ドックを受ける必要があるかということもあるので、頻度や受診する年数の検討は課題。

<質疑から>

- 健康増進事業のメニューや回数が減ることで参加者が減っているのは、保健師の退職などによる。保健師の確保・定着が、全体的に足りない中で課題。
- 特定健診について、集団検診も実施している。受診しない人には、項目に不備を指摘する方や実施時期が限られるという方がいる。

3. 財政的負担について、費用対効果をどのように評価するか

- 費用対効果を図ることはむずかしい。
- 医療費助成と給付額の関係も比較対象して評価することはむずかしいが、医療費

そのものは大きく変わっていない。

- 人間ドックに対する関心は高くなっている。現在は広域連合健康増進事業の予算を充当しているが、今後補助充当率が下がるので、財源の確保は課題。

<質疑から>

- (民生費が急激な増加・他で減らした支出についての説明は、財務担当がいないので答えられない) が、国の支援事業との関連で民生費は急激に増えている。
- 領収書を持ってきてもらい申請をする手続きが必要なため、制度の運用に人手を要する。本来、国保と後期高齢者医療であわせて5~6名ぐらいが想定だが、現在各4人に加えて、繁忙期には2~3名を臨時で配置する。

4. 高齢者外出支援バスの運営と利用状況

- 「同居家族には頼みにくい」・「バスを使いたい」という声が多いことで実施に踏み切った。
- 4コースを4台のバンで運行。役場起点で乗り換えができることと、一周1時間足らずの一方通行の環状コースの設定のため、同じ“分”に車が来ることで、定着したとの認識。
- コミュニティーバスとは別の位置づけ。
- 当初外部委託もしていたが、現在は直営。ただし、小さな事故や車の損耗が激しいので、直営がベストかどうかは検討課題。

<質疑から>

- もともと2路線しかない民間バス事業者とのバッシングより、民間バス事業者を枝路線で補完するような形になっているので、事業者にもメリットが大きい。

今後について：

実際に、高齢者医療費を無料にした日の出町で、そもそもの経緯や課題を、議会と行政の双方から伺うことができたのは有意義であった。

財政力が異なる中で、二宮町で同じ施策を実施することは困難と思われるが、人間ドック・特定健診などの検診率をあげたり、医療費負担のハードルを低くすることで、疾病の予防や重篤化をふせぐことにつながるか、さらにそれがトータルの医療費支出抑制につなげることができるかについて、他事例も含めて調べてみたい。

さらに、福祉的な移動支援という観点から、町のコミバスの運営についても引き続き調査を続けることが求められる。